

全国学力・学習状況調査

嘉穂中学校

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

国語A(102)国語B(104)数学A(103)数学B(103)

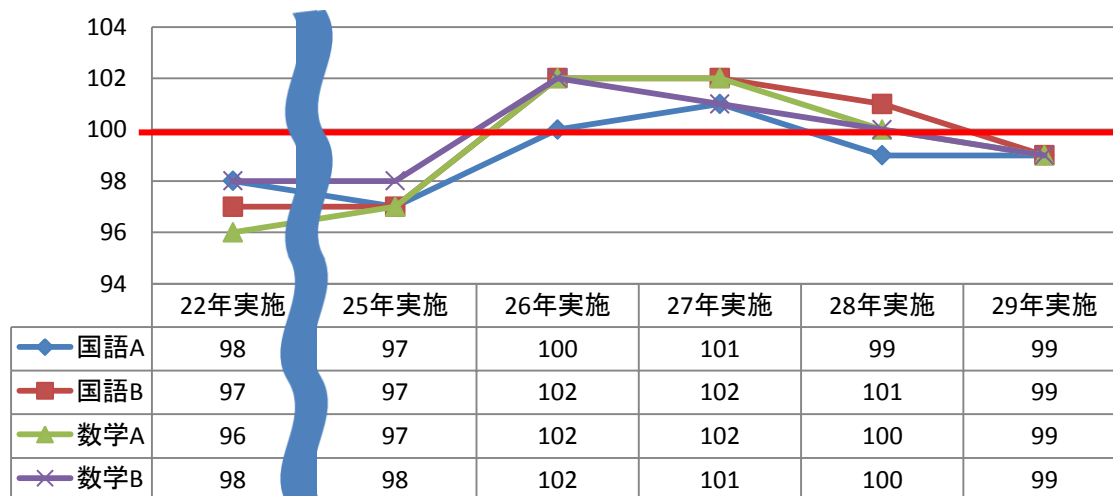
3.指標に向けての取組

・各教科等において基本的な内容の小テストや繰り返し学習を実施し言語活動を充実させる授業への改善を図ること。また、基礎基本の定着を目的として、夏休み・冬休み期間を利用した外部の人材による学力補充を計6日間実施。
・週末課題として、自学ノートを活用した取り組み、予習を取り入れた課題の実施。
・研究部による年間を通しての計画的な授業研究の実施。

4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	99	99	99	99
嘉麻市	96	95	94	95
全国	100	100	100	100

推移



5.各学校における分析

今年度の全国学力テスト結果は、前年度より1ポイント程度の低下傾向が見られた。分析要因として特徴的な面は、

- ①前年度に比べて無解答率が増加している。問いによっては、全国より10ポイント無解答率が高い例が見られた。
- ②二極化傾向が見受けられる。全体のテストの配点が0点の生徒が存在する。
- ③理解はできている内容であるが「繰り返し学習」が不足しているために定着せず、学んだ知識が剥落し、目標達成に至らず解答できていない傾向が多数見受けられた。以上の点が特徴として上げられる。

6.各学校における今後の取組

短期・中期指標に向けて、学ぶ意欲と学力の向上を図る。特に基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得から、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。そのために各教科等において、基本的な内容の小テストや繰り返し学習を実施し、言語活動を充実させる授業への改善を図るとともに言語環境を整える。また、授業づくりの視点から生徒の学びに向かう力を引き出す導入の工夫や書く活動を中心とした思考力・判断力・表現力等の育成を図る。さらに学力テストの徹底した分析を実施する。国語・数学・質問紙共に各領域と分野毎に職員を分け出来るだけ詳細な分析をおこない、分析結果による生徒の理解力の低い分野を教科の授業で焦点化・重点化した問題を週末課題として補完する。家庭学習時間を1・2年生90分、3年生120分以上と設定し、9割の生徒が目標を達成するように指導する。また、月曜日の提出率を95%以上にする。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。

基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。

嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。また、個の学習課題に応じるため、週末課題の個別化を推進する。